石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/
代表電話番号 0225(22)7711
広報専用FAX 0225(22)7809

第32回宮城県女子駅伝 優勝

初出場　女子競走部

快走！　3区間で区間賞

初出場で初優勝――。第32回宮城県女子駅伝競走大会が11月22日、大崎市の化女沼古代の里公園前を発着点とする5区間21・0975キロのコースで行われ、女子競走部が1時間12分16秒で初優勝を飾った。3区間で区間賞を獲得するなど終始力強い走りで、昨年の優勝タイムを29秒短縮。創部1年目の快挙に部員たちの笑顔がはじけた。

大会には2連覇中の東北福祉大学をはじめ、県内の大学や高校など17チームが出場。

女子競走部は1区の川崎美祈さん（人間1・山形県山形城北高）が首位の背中を必死で追い、1秒差の力走でたすきをつなぐと、2区の牧野あやさん（経営1・岩手県北上翔南高）が区間賞の走りで首位に。続く3区の漆戸雛さん（人間1・青森県八戸学院光星高）と4区の髙橋七海さん（人間1・山形県九里学園高）も区間賞の快走をみせ、アンカーの原田詠麻主将（経営1・静岡県静岡北高）が逃げ切った。

原田主将は「1区からいい流れで、2位と差が開いた状態でたすきを受け取り、落ち着いて走ることができました。優勝を目指していたので、有言実行することができてよかった」と大会を振り返った。

創部1年目で杜の都駅伝出場という目標を達成するなど、充実したシーズンとなった。来春に向け、原田主将は「今までと同じように距離走、スピード練習に取り組みます。春のトラックシーズンに向けて冬季は走り込み、補強運動の強化を行い、いい結果を残せるように頑張ります」と抱負を語った。

◇

川崎美祈さんが富士山女子駅伝（静岡県富士市、富士宮市＝12月30日10時スタート、7区間43・4キロ、フジテレビ系列で生放送）の東日本選抜のメンバーに選出された。同大会は全国18大学と選抜3チーム（東日本、西日本、静岡）が出場するトップレベルの大会。力走に期待したい。

▶ 原田主将が笑顔でゴール

理事長にV報告

◀ 日高理事長（左端）に優勝を報告した原田主将（中央）と泉田監督

12月4日には、日高義博理事長に、泉田利治監督と原田主将が優勝報告した。優勝カップと賞状を手に原田主将が活動の成果を伝え、「さらに記録を伸ばせるように頑張ります」と一層の飛躍を誓うと、日高理事長は創部1年目の奮闘をねぎらうとともに激励の言葉を贈った。

▶ 商品発表会 & 試食会 ▶

カニだしラーメン

経営学部・石原慎士ゼミが、発売から2年間で17・5万食を売り上げた大好評の「石巻・飯野川発サバだしラーメン」に続く新商品として、地域間連携開発商品「鳥取・境港発カニだしラーメン」を開発。試験販売（本紙10月号既報）を経て、11月26日に商品発表会・試食会が開催された。会場となった本学キャンパスと鳥取県境港市をインターネット回線でつなぎ、ゼミ生や関係者らが開発の経緯と、商品の特徴、販売計画などを説明した。その後、出席者に「カニだしラーメン」を振る舞い、商品をPRした。

「カニだしラーメン」の特徴は、カニ風味のあっさりしょうゆスープと、低かん水のストレート麺。スープは境港で水揚げされたベニズワイガニのゆで汁を使用し、麺は宮城県産の小麦粉（ユキチカラ）に石巻産のサバの焼成骨を配合した。両市の産学・異業種が連携し、それぞれの地域資源と、地元企業の技術力を結集した一品となった。

生麺にスープがついた家庭向け商品（2食入り）は税込み500円前後で販売。12月初旬から市内の道の駅「上品（じょうぼん）の郷」のほか、宮城県内で発売されている。

石原ゼミは、境港市の関連企業、NPO法人などと、石巻市の製麺会社などの間をコーディネート。試食を繰り返して、スープに合う麺の太さを提案したほか、鳥取や東京で行われた試験販売や消費者調査も担当した。

藤原優真ゼミ長（経営4・岩手県専大北上高）は「商品化に至るまで苦労があったが、完成してとてもうれしく、やりがいを感じました。この商品が石巻・境港の地域活性化のきっかけになればと思います。これからも地域に貢献していきたいです」と抱負を語った。

みやぎふるさとCM大賞
舛井ゼミ作品　おもしろ賞

▲　CMを制作した千葉さん、川名さん、小原さん（左から）

東日本放送（KHB）が主催する「2015みやぎふるさとCM大賞」の発表審査会が11月26日、仙台市のイズミティ21で行われ、経営学部・舛井道晴ゼミがNPO法人DoTankみやぎとともに制作した石巻市の魅力を伝えるCMがおもしろ賞を受賞した。

同CM大賞は手作りCMで地元の魅力を表現し、地域の良さを感じ取ってもらうもので、14回目となる今年は29の作品がエントリー。情報技術をテーマにする舛井ゼミはゼミ活動の一環として昨年からCM制作に取り組んでおり、石巻市の代表作品として2年連続のエントリーを果たした。

今回、参加した舛井ゼミ生は▽川名裕貴さん（宮城県聖和学園高）▽小原裕貴さん（宮城県東北高）▽千葉裕規さん（宮城県仙台大志高）の経営学部3年次生3人。映像制作、編集技術を生かした。

CMの舞台は、牡鹿半島の先端にあり「ネコの島」として近年、旅行者を集める田代島。演技の勉強をしていたという菅野あゆみさん（人間1・宮城県クラーク記念国際高）に出演を依頼し、猫に扮（ふん）した菅野さんと島の猫たちが〝共演〟するユーモアあふれる作品に仕上げた。

「学生らしく元気な作品を目指した。特に冒頭のシーンはインパクトがあって面白く、そうした点が評価されたと思う」と3人は口をそろえる。

監督を務めた川名さんは「自分たちで一から作った作品が評価され、感激している。菅野さんやサポートしてくださったDoTankの皆さん、大学院生の先輩たちに感謝しています。この経験を後輩に伝え、今後につなげていきたい」と話した。

作品は2016年中に計20回、KHBで放送される。

硬式野球部
地域イベントで子どもらと交流

硬式野球部が石巻地域で行われた2つのイベントに参加し、野球を通じて地域交流を図った。

11月14日、石巻市民球場と石巻工業高校野球グラウンドで実施された「宮城県高等学校野球連盟東部支部技術講習会」には、酒井健志監督と部員30人が参加。石巻地区6高の高校球児約110人を相手にキャッチボールやバッティングなどを行い、野球の基本についてアドバイスした。球児たちの質問にも丁寧に応じ、自分たちが日ごろ行っている練習メニューや心構えなどを説明した。

同22日に開催された「石巻野球フェスティバル」には、高橋良希主将（経営3・宮城県東北工業大学高＝現・仙台城南高）ら10人がボランティアで参加した。

会場の石巻市民球場には、小中学校のスポーツ少年団のほか、野球未経験の子どもたちなど約100人と保護者らが集まった。ベースランニングやストラックアウトなどのトレーニングやアトラクションに夢中で取り組み、野球の楽しさを体験した。

▲ 体を動かしながら子どもたちと交流＝石巻野球フェスティバル

水野准教授研究奨励賞
石田記念財団

理工学部機械工学科の水野純准教授（マイクロエレクトロメカニカル・システム）が、一般財団法人石田實記念財団の「平成27年度研究奨励賞」を受賞した＝写真。

研究のテーマは「3Dプリンタによる SMEMS（Submilli Electro Mechanical System）デバイスに関する研究」。

同財団は宮城県内の情報通信産業分野の研究者や教育者の支援・育成を目的に設立され、同賞は進歩発展に貢献が期待される研究に贈られる。